

第6号様式（第14条関係）

平成27年4月9日

新宿区長 へ

法人名 特定非営利活動法人
国際ビフレンダーズ
東京自殺防止センター
所在地 新宿区大久保3-10-1
(フリガナ) モイ ケイイチ
代表者氏名 代表理事 森 啓一 ⑩

協働推進基金助成金交付申請書

新宿区協働推進基金条例施行規則第14条の規定により、下記のとおり助成金の交付を申請します。

記

助成金申請額 320,200 円

1 助成対象事業

事業名	自殺予防「ビフレンディングの種を蒔く」事業	
事業種別	<input checked="" type="checkbox"/> 既存事業	<input type="checkbox"/> 新規事業
申請する助成の種類	<input checked="" type="checkbox"/> NPO活動資金助成	<input type="checkbox"/> 新事業立上げ助成
過去に本助成を受けた実績	助成年度（ ）事業名（ ） 助成年度（ ）事業名（ ） 助成年度（ ）事業名（ ）	
この事業に対し他の助成の有無 (申請中のものを含む。)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	有の場合は助成団体及び助成額 団体名： 助成額： 円
事業実施地域及び会場	戸塚地域センター 新宿区高田馬場2丁目18番1号 7F 多目的ホール	
スケジュール (実施期間等)	講演会スケジュール ①平成27年8月22日(土) or 29日(土) 19:00~21:00 ②平成27年11月21日(土) or 28日(土) 19:00~21:00 ③平成28年2月11日(木祝) 14:00~16:00 各回参加予定者数者80名 講師候補者 森山花鈴氏、清水康之氏、本橋豊氏 テーマ「自殺予防に於ける地域活動の役割」	
区民ニーズの把握状況 (それは、どのように把握したかを含む。)	昨年より新宿区の民生・児童委員のみなさんへ講演会の案内を出しているが徐々にではあるが参加者が増え、その方々のアンケートからもニーズはあると感じている。 神奈川県民のニーズ調査(平成22年別紙資料)でも「孤立化しやすい人を支える地域のネットワーク」の充実への要望が47.3%あった。	
事業の対象者	新宿区民・一般(自殺防止に関心のあるゲートキーパーになれる人)	

<p style="text-align: center;">活動内容</p> <p>※必要に応じて、図表、地図、イラスト、写真等を添付し、又は印刷物等の資料を提出していただいても結構です。</p>	<p>講演会を通じて広く区民の方に自殺防止が身近な問題であるという意識を持って頂き、自殺防止に関して誰にでもできることがあるという「ビフレンディング (be+friend 友達になるの造語) の種を蒔く」という活動を知ってもらい、傾聴により周りの人とのコミュニケーションを少しでもよくして自殺防止活動を進めたい。</p> <p>講演会実績 (添付資料: 講演会)</p> <p>①2014年1月18日「生き心地の良い町」岡 檀氏 参加者実績 78名</p> <p>②2014年7月19日「死を意識する生き方・死への準備」中村洋一氏 参加者実績 50名</p> <p>③2015年2月11日「法医学者から見た自殺防止」吉岡尚文氏 参加者実績 117名</p>
<p>地域の人たちの事業へのかかわり方</p> <p>(ボランティアとして参加する等、どのように地域の人がこの事業に参画することができるかを記入してください。)</p>	<p>町内会等の小さいコミュニティの単位からの地道な活動が必要と感じて下さる方を増やし、講演会の広報活動に関わって周りの方々に「ビフレンディング」を広めて欲しい。</p>
<p style="text-align: center;">実行体制</p> <p>(必要とされる人員とその確保のめど、必要な設備等)</p>	<p>講演会準備スタッフ 6名 撮影記録係 2名 司会進行 1名 会場係 3名</p> <p>すべてボランティア及び支援会員が担当予定 (無給)</p>
<p>期待される成果</p>	<p>区民や地域にもたらす具体的効果</p> <p>区民のひとり一人が、自殺防止について考える機会になり、特に新宿区に於いては若者の自殺が多いことを自覚して自分たちの町をどのような町にしたら少しでも若者の自殺を減らせるかを考えるきっかけになると思います。</p>

	申請事業を実施することによる貴団体の活動への効果	我々の団体としては、地元の方々に活動内容を理解して頂き少しでも地元からのボランティア参加を願うものであります。
	貴団体の経営基盤強化に向けた取り組みと今後の展望	<p>経済的基盤強化としては、従来通り全国の支援者に対してきめの細かい活動報告（毎月発行のニューズレターの充実）を行い、広く寄付を募っていく。</p> <p>人的基盤強化は、東北大震災以降現状維持も厳しく新しい人材の確保が急務ではあるが研修応募者が少なく、ボランティア活動に対するハードルの高さを応募者が感じているのではないかとと思われる。これを除去し誰にでもできる自殺防止活動であることを丁寧に説明して理解して貰うことを目標としている。</p> <p>戸塚地域をはじめ他地域センターでも同様の活動を広げていきたい。</p>

2 助成対象事業費内訳（積算根拠）

※協働推進基金助成金は、助成申請額を入れて積算して下さい。

※入場料又は会費を徴収して行うイベント、公演等は、必ず単価を入れてください。

(G)

		経費	積算根拠（内訳）	金額
		収入	団体負担金	
参加費・資料代等				円
その他の収入				円
協働推進基金助成金			助成希望額	320,200 円
計				510,300 円
支出（助成の対象になる事業費の内訳）	費目	予算額	内訳	
	会議費	15,200 円	戸塚地域センター多目的ホール使用料 ¥5,400（夜間1・2）×2回 +¥4,400（午後1・2）×1回=¥15,200	
	宣伝費	192,000 円	チラシ印刷 A4(片面カラー、裏面モノクロ) 16 円×4,000 枚 =¥64,000 ×3 回=¥192,000	
	リース費	円		

消耗品費	7,000 円	長 3 封筒 5 円×300 枚=¥1,500 角 2 封筒 10 円×550 枚=¥5,500
謝礼	60,000 円	講師謝礼@30,000×3 名 (3 回) =¥90,000 内¥60,000 を計上 (¥30,000 は助成対象外)
人件費	円	
材料費	円	
交通費	6,000 円	講師交通費 @1,000×2 (往復) ×3 名 (3 回) =¥6,000
その他諸経費	200,100 円	郵便代 (ちらし送付) 送付先 72 円×300 通×3 回=¥64,800 (新宿区民生・児童委員) 82 円×550 通×3 回=¥135,300 (都内地域包括支援センター、関係団体等)
助成対象事業費 (小計)	480,300 円	
助成対象外事業費	30,000 円	講師謝礼(助成対象外分) 30,000 円
事業総額		510,300 円

3 その他

助成金申請額を減額して助成金の交付決定をした場合、助成対象事業の遂行は可能ですか。

(はい ・ いいえ)

助成対象経費

下記項目以外の経費 (飲食費等) は、対象といたしません。

項目	経費の種類
①会議費	打合せ、会議資料コピー代、会場使用料等
②宣伝費	チラシ、ポスター等作成費
③リース費	事業に直接必要な機器の賃借料
④消耗品費	事務用品の購入費
⑤謝礼	講師、協力団体等への謝礼 (1 時間当たり 1 万円を限度とし、1 日当たり 3 万円を限度とする。)
⑥人件費	事業実施に直接関る事業主体の人件費として時間単価 1,000 円、1 日あたり 1 人 4,000 円を上限として、かつ助成対象事業費の 20%以内
⑦材料費	事業に直接必要な材料の購入費
⑧交通費	公共交通機関の交通費、講師との事前打合せのための交通費等 (タクシー代は除く。)
⑨その他諸経費	損害保険料、郵送料等 (チャリティ募金、寄附金等は除く。)